

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

No.680 ★公益社団法人 読書推進運動協議会 定時総会(1~4頁)

公益社団法人 読書推進運動協議会 2024年度 定時総会

読書環境をとりまく課題に向きあい すべての方に本と親しむきっかけを提供していく



議長を務める
野間省伸会長

6月27日(木)午後3時より、東京都千代田区の出版クラブホールにおいて、「公益社団法人 読書推進運動協議会 2024年度 定時総会」が開催された。
野間省伸会長の挨拶のあと、定款第16条の規定により、野間会長が議長席につき、議事を進行した。最初に事務局より、今回の出席会員は32名、委任状提出会員は172名、合計204名であり、定款第17条の規定による定足数、総会員の過半数137名を超えたので、総会は成立していることが報告された。
定款第20条の規定により、総会の議事録記名押印者として、野間会長、設楽敏一常務理事、渡部正副理事の3名が指名された。

第一号議案は「2023年度事業報告書および決算報告書」承認の件。「2023年度事業報告書」について、齋藤健司事業委員長に代わり、佐々木事務局長から報告が行われた。つづいて「2023年度決算報告書」について、田中幹弘財務委員長に代わり、佐々木事務局長から説明が行われた。その後、監事を代表して春井宏之監事が、本決算は公正かつ正確であることを認証するとの監事報告を行った。議長は出席会員に諮り、それぞれ全員異議なく承認可決された。

第二号議案は「役員交代」承認の件。佐々木事務局長が、今回は改選期ではないが、一般社団法人教科書協会より同会の会長交代にともない、星野泰也理事が退任し、後任候補として小田良次氏の推薦の申し入れがあったことと、一般社団法人日本雑誌協会より中部嘉人理事が雑誌協合理事を退任するため当協議会理事も退任すると申し入れがあり、現任期中は理事13名で運営することとなったと報告。これは当協議会定款にさだめられた理事数に合致していると説明した。定款第22条の規定に従い、議長は以上について出席会員に諮り、全員異議なく原案どおり承認可決された。



監査報告をする
春井宏之監事

■挨拶

公益社団法人
読書推進運動協議会

会長 野間 省伸



本日はお忙しい中、公益社団法人
読書推進運動協議会 2024
年度 定時総会にご出席いただき、
ありがとうございます。

昨年度、全国の読書推進運動は
力強い活動を取り戻すことができ
ました。秋の「読書週間」の行事
主催者数は、1980と過去最高
を記録いたしました。今年春の「こ
どもの読書週間」でも引き続き
活発な状況が続き、「読み聞かせ」
や「おはなし会」など対面の行事
を中心に、各地の読書推進運動協
議会から多数の報告をいただいで
いるところです。

また、読書推進運動協議会に事

務局を置く「子どもの読書推進会
議」が、主催団体のひとつとして
参加しております。「上野の森親子
ブックフェスタ2024」は、今
年も5月4日、5日の2日間、上
野公園で開催することができまし
た。好天にも恵まれ、初の2日間
開催となった昨年を上回る来場者
数、書籍売り上げを記録いたしま
した。各出展ブースでは著者サイ
ン会なども多数行われ、リアルに
紙の本を手に取り、人とふれあう
ことの楽しさをあらためて実感い
たしました。

いっぽう、「書店ゼロ」市町村
の増加、いわゆる「2024年
問題」の物流への影響、図書館に
おける正規職員の減少など、読書
をとりまく環境には多くの課題が
あります。このような状況だから
こそ、私たち読書推進運動協議会
は、読書が持つ意味と価値は大切
で不変であることをあらためて認
識し、従来にも増してすべての方
に本と親しむきっかけを提供して
まいります。



総会風景

今後ともみなさまのご支援とご
協力をお願いしまして、ご挨拶と
いたします。

■2024年度 事業方針

全国の関係団体と連携を強化
さらなる事業の活性化を

読書推進運動協議会は、おかげ
さまで本年度創立65年を数えま
す。歴史の蓄積の上に立ちながら、
読書の未来を見据えてこれからも
活動を継続してまいります。

全国の読書推進活動は、コロナ
禍以前の勢いを取り戻すことがで
きました。春の「子どもの読書
週間」、秋の「読書週間」におけ
る行事主催者数も以前のレベルに
回復しており、読書会、読み聞か
せ会、ワークショップなどバラエ
ティあふれる活動が各地で活発に
行われています。本を介して人と
人が直接対面し価値観を共有する
という、読書推進運動の基本が
戻ってきたことに希望を感じま
す。

読書推進運動協議会は、おかげ
さまで本年度創立65年を数えま
す。歴史の蓄積の上に立ちながら、
読書の未来を見据えてこれからも
活動を継続してまいります。

「子どもの読書週間」「読書週間」
の標語は、会員社のみならず、全
国の図書館、そしてホームページ
で一般の方々にも呼びかけて募集
しています。とくに販売会社や出
版社には事業委員として深く関
わっていたとき、それぞれの社員
の方々からたくさん応募をいた
だいています。2024年春の「こ

子どもの読書週間」の標語は「ひら
いてワクワクめくってドキドキ」
に、秋の「読書週間」の標語は「こ
の一行(いちぎょう)に逢いにぎ
た」に決定しました。ここ数年は、
図書館だけでなく、行政や教育現
場のかたがたからポスター画像の
使用について、問い合わせが増え
てきました。標語やポスターにか
かわる作業を進めるなかで、事業
の認知度をより高めていくように
いたします。

「読書週間」は、ポスターのイ
ラストも一般から公募しており、
2016年からは標語にあわせた
イラストを公募し、標語と親和性
の高い力作が多く寄せられていま
す。また「子どもの読書週間」の
ポスターにつきましては、昨年度
より子どもたちに人気のある新進
の絵本作家ユニット、ザ・キャビ
ンカンパニーさんを起用し好評を
得ました。本年も同じく標語にあ
わせた描き下ろしイラストで制作
いたします。

私ども読進協の事業の基盤は、
永年にわたって構築してまいりま

2024年度役員構成

順不同・敬称略

会 長	野間 省伸	日本書籍出版協会 (講談社社長)
副 会 長	奥村 景二	日本出版取次協会 (日本出版販売社社長)
同	森 茜	日本図書館協会 (同顧問)
常務理事 (財務委員長)	田仲 幹弘	日本出版取次協会 (トーハン取締役副社長)
同	齋藤 健司	日本書籍出版協会 (金の星社社長)
同	成瀬 雅人	日本書籍出版協会 (原書房社長)
同	矢幡 秀治	日本書店商業組合連合会 (真光書店社長)
同	設楽 敬一	全国学校図書館協議会 (同理事長)
同	宮原 博昭	日本雑誌協会 (学研ホールディングス社長)
理 事	秋本 敏	日本図書館協会 (同図書紹介事業委員会委員長)
同	岡本 功	日本書籍出版協会 (ひかりのくに社長)
同	小田 良次	教科書協会 (実教出版社長)
同	渡部 正嗣	日本出版取次協会 (日教販社長)
監 事	春井 宏之	日本書店商業組合連合会 (正文館書店社長)
同	竹村 和子	全国学校図書館協議会 (同常務理事・事務局長)
同	佐藤 潤一	日本書籍出版協会 (福音館書店社長)

事務局長 佐々木泰

した、読書推進活動に携わる現場のみならずとの強固な絆です。読書週間事業の一環として行われている、全国の読書推進運動協議会の推薦をもとに選ばれた「全国優良読書グループ表彰」と、永年にわたって読書の普及に貢献された団体と個人を表彰する「野間読書推進賞」の顕彰事業は、関係団体や各道府県の読書推進運動協議会との緊密な協力関係のもとに推進しています。

全国の読書推進運動協議会から寄せられた推薦図書をもとに作成する、約20万部の「若い人に贈る読書のすすめ」と、約14万部の「敬老の日読書のすすめ」のリーフレットは、今年度も関係の団体を通じでお配りしていきます。学校や図書館からの問い合わせが多いのは、積極的に活用されている表れと思います。

2023年度は、5年に一度おこなっている「全国読書グループ調査」を実施いたしました。本年度中に、調査をまとめた「2023年度 全国読書グループ総覧」の刊行を予定しています。本総覧は全国の読書グループの実態を記録した、類例のない資料としての評価を頂戴し、公共図書館および縁機関、会員社、関係者、司書課程を有する大学などに配布して、ご活用いただいております。今回は新型コロナウイルス感染症の影響についても調査項目に加えてお

ります。機関紙『読書推進運動』は、これまでと同様に事業の紹介、関係団体・機関のニュースを中心に紙面づくりを心掛けます。「優良読書グループのあゆみ」やこれまでの野間読書推進賞受賞者の活動など、読書推進運動の現場を積極的に紹介してまいります。ホームページでの「読書週間」「こどもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評をいただいております。さらに魅力ある素材の提供に取り組んでいきます。なお、年々ポスター、リーフレットの需要が高まる一方、昨今の物価高騰により、印刷費や郵送料など

ど事業に要する経費も上昇してきております。読書推進事業の継続性を維持するために、デリバリー方法の見直しなども含め、経費の効率的な運用を心掛けてまいります。現在40道府県にそれぞれの読書推進運動協議会があり、読書推進運動協議会のさまざまな事業を行っていくにあたり、連携を強め、多大な協力をいただいております。しかし、読書推進運動協議会のない都府県が、7つあります。こうした都府県にあらためて働きかけ、事業の活性化をはかっていきます。最後に、2024年1月に発生した能登半島地震については、



理事就任の挨拶をする小田良次氏(左)

巨大な災害は地域と生活を一変させました。読書環境についても大きな影響が出ています。読書推進運動協議会は、上述の機関紙やホームページを通して関連団体の支援の動きなどをお伝えしていくとともに、長年培ってきた優良読書グループ、野間読書推進賞受賞者等とのネットワークを生かして情報の収集、提供に努め、もって地域の読書活動の振興に貢献してまいります。被災地の早期の復興を祈念してやみません。

公益社団法人 読書推進運動協議会 2024年度事業		
名称	期間	内容
2024 第78回 読書週間	10月27日 ～ 11月9日 (14日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・標語とイラストを募集、標語選定事業委員会とイラスト選定事業委員会にて決定し、ポスター6万枚を製作 ・雑誌広告を作成。雑誌協会を通じ、雑誌出版社に掲載協力を要請 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「文字・活字文化の日(10月27日)」「秋の読書推進月間」と連携 ・全国優良読書グループ表彰の実施 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
2024 第66回 こどもの読書週間	4月23日 ～ 5月12日 (20日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・標語を募集、標語選定事業委員会にて決定。ポスター6万枚を製作 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「子ども読書の日(4月23日)」「上野の森 親子ブックフェスタ」と連携 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
第54回 野間読書推進賞	贈呈式は 11月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・読書推進運動に功績があった団体および個人を顕彰(2団体2個人が基本) ・贈呈式は「読書週間」期間中に開催
2024 敬老の日読書のすすめ	敬老の日を 中心に	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした選定図書目録のリーフレットを14万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、書店、会員社などへ送付
2025 若い人に贈る読書の すすめ	1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人、高校、大学の卒業生を対象とした選定図書リーフレットを21万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、高校・大学の図書館、書店、会員社などへ送付
『2023年度 全国読書グループ総覧』 刊行	年度内刊行	<ul style="list-style-type: none"> ・5年に一度、全国の公共図書館および類縁機関を対象に行う読書グループの活動状況の調査を2023年度に実施 ・全国公共図書館協議会の協力のもと、都道府県立図書館・道府県読書推進運動協議会を通じて調査票を配布 ・回答を集計し、その結果を『2023年度 全国読書グループ総覧』として2024年度に刊行。全国の公共図書館および類縁機関、会員、関係者などに配布する
機関紙 『読書推進運動』	毎月	<ul style="list-style-type: none"> ・機関紙『読書推進運動』を毎月発行するほか、別冊付録を年2回発行 ・発行部数 約5500部 ・道府県読書推進運動協議会、会員社、全国の公共図書館、関係団体などに送付
公式ホームページ	毎月2回更新	<ul style="list-style-type: none"> ・団体事業の発信 ・機関紙バックナンバーの掲載 ・図書館・学校・書店の展示用に、各種事業のポップ・しおりなど、新規素材のデータ配信を行う ・公式X(旧Twitter)での情報発信
受託、共催、後援、協賛		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの読書推進会議」の事務局を担当 ・「伊藤忠記念財団」の子ども文庫助成事業の受託 ・関連団体と読書推進事業を後援、協賛、協力

■絵本ワールドinさいたま

埼玉県で初めての絵本ワールド！ 大学生が会場で大活躍

「絵本ワールドinさいたま」が6月16日(日)、埼玉県新座市の十文字学園女子大学で開催された。女子大学、大学院、中学・高等学校、附属幼稚園を運営する、学校法人十文字学園が中心となって実行委員会を組織し、初めての開催である。

会場の女子大学キャンパスは、JR武蔵野線新座駅から徒歩約8分。緑あふれるゆつたりしたスペースだ。

キャンパスを舞台に、絵本の販売のほか、スタンプラリー、ぬり絵やガーランド作りのワークショップ、読み聞かせ、さらには「かいけつゾロリ」の着ぐるみショーなど一日の催事としては盛りだくさんの内容だった。各コンテンツでは同女子大学の学生がスタッフとして多数参加。学生にとっても貴重な学びの場となった。

子どもたちのお楽しみ、トークショー&サイン会には、詩人・絵詞作家の内田麟太郎さん、児童文学者の最上平さんというベテランのおふたりと、聞かせ屋 けいたろうさんも登場。内田さんは用



七夕飾りのワークショップも大盛況

意されたホワイトボードいっぱいにかわいいタヌキの絵を描きながら、長い下積み時代の話や、主だった作品について、その制作にいたるまでのエピソードなどを、終始なごやかな雰囲気なかで語っていた。

埼玉県南部の大学キャンパスという恵まれた会場のロケーションで、近隣の自治体教育委員会や、地元メディアなどの後援も実現。コロナ禍以降開催が減少傾向にあった「絵本ワールド」にとつて、今後の展開が期待される「新顔」の登場と思われる。

■絵本ワールドinアエルワ2024

人気作家が続々登場！ ミステリー好きな子どもも大喜び

「絵本ワールドinアエルワ2024」が、6月22日(土)、23日(日)徳島県阿波市の阿波市交流防災拠点施設アエルワで開催された。会場はJR四国で徳島駅から約40分の鴨島駅が最寄りで、さらにタクシーに15分ほど乗車するロケーション。昨年の小松島に続き、会場を固定せず、郊外での催事を開催することで、地域の活性化につなげるねらいもあるとのこと。

絵本の販売のほか、ファミリーコンサートやワークショップなど、子どもたちにむけて多彩なコンテンツが実施され、多くの来場者でにぎわった。

知念実希人さん、柴田ケイコさん、畠山健二さん、有田奈央さん、江口ノリコさんなど、幼児児童向けにとどまらないバリエーション豊富な作家も登場。トークショー、読み聞かせ、サイン会などを、豪華な2日間となった。

なかでも知念実希人さんは、『人気シリーズ』放課後ミステリクラブ(ライツ社)の最新4巻が刊行される当日というタイミングで



ファミリーコンサートでは会場の親子も一緒に歌った

のトークとサイン会だった。大人向けのミステリーで作家デビューし、本屋大賞に連続でノミネートされるなど多くのベストセラーを上梓するなかで、小学生が主人公のミステリーを手がけるにいたった経緯と、大人向けと児童向けの作品を書き分けるポイントなどについても語った。

日本内科学会認定内科医の顔も持つ知念さん。医師としての仕事と作家活動の両立についてもエピソードを交えて言及し、会場を埋めた子どもも大人も興味深く聞き入っていた。

事務局よりお知らせ

●『読書推進運動』お届け時期について

機関紙『読書推進運動』次号681号(2024年8月15日号)は、当事務局、印刷会社、発送業者の夏期休業により、8月20日出版、それ以降の発送となります。

●読書推進運動協議会 事務局
夏期休業のお知らせ
8月12日(月)～16日(金)

その間にメール・ファックスなどでいただいたお問い合わせは、19日以降、順次お答えいたします。

●「敬老の日読書のすすめ」書目およびリーフレットについて

機関紙『読書推進運動』689号での発表に先立ち、当協議会ホームページにて7月22日より書目リストを掲載いたします。展示やフェアなどの準備にご活用ください。リーフレットは例年同様、8月上旬に出来予定です。

みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のほど、どうぞよろしくお願いたします。

■親地連が記念講演会を開催

子どもが幸せな国の 児童文学・文学者を知る

親子読書地域文庫全国連絡会（「親地連」）は、6月29日（土）、東京都武蔵野市の武蔵野プレイスで、「おやちれん第28期記念講演会『オランダの本と子どもたちー子どもたちの幸せを考えるー（子どもゆめ基金助成活動）』を開催した。講師は翻訳家・作家の野坂悦子さん。

講演のはじめに野坂さんは、オランダの文化、生活を紹介。毎年1月の「全国読み聞かせの日々」では、王室メンバーが中心となって推薦図書をさまざまな施設で読み聞かせ。子どもたちは「リラックスできるから」との理由でパジャマ姿で参加することや、国内の優秀な児童文学・イラストレーションを表彰する「金の石筆賞・金の絵筆賞」などの活動に、会場の関心は深まった。

続いて、オランダの子どもの幸福度は世界トップクラスと言われているが、その背景を探るとして、オランダの作家と作品を紹介。「レナレナ」のハリエット・ヴァン・レークや、『かえるくん』シリーズ

ズのマックス・ベルジュイス、『八森の子どもたち』のエルス・ペルフロムなど、日本でも人気の作家とのエピソードを交えつつ、大人と子どもを対等な存在として描き、子どもの視点にたった作品が多いこと、子どもの自主性を重んじる国民性が児童文学にも反映されている様子が語られた。

また、翻訳出版について「読みものはじっくり読みこんでから、自分で出版社に企画を持っていく。出会いやタイミングなど、出版まで10年ぐらいかかった本もある」などの苦労話も紹介された。



これまでに翻訳した多数の作品と出会った作家を紹介する野坂さん

優良読書グループの歩み (7)

2023年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

文学に親しむ会

代表者 油谷 智子

富山県富山市

〈推薦〉
富山県読書推進運動協議会

私たちの読書会は、1989年に富山市民大学の近代文学講座「白井吉見『安曇野』講読コース（講師・伊藤了一先生）」から始まりました。

2001年、富山市民大学の講座は終了しましたが、その後も伊藤先生と一緒に読書会をしたいと有志で立ちあげたのが「文学に親しむ会」です。2004年、伊藤先生は逝去されましたが、会員の熱意で継続が決まりました。

同年「森鷗外文学散歩」をしたとき、東京三鷹の禅林寺での「鷗外忌」でお会いしたのが、富山大学の金子幸代教授でした。それが縁で、金子先生にはアドバイザーとして年3回の公開文学講座をお

願いました。

森鷗外研究の専門家である金子先生は、富山ゆかりの女性作家・小寺（尾島）菊子の研究も開始されていたので、私たちも2008年から2年間、小寺菊子の作品を読むことになりました。書店では入手できない菊子の作品を探す作業から、今までに経験のない困難とおもしろみを感じました。

金子先生は2021年に逝去されましたが、私たちの心には「志あるところに道ありき」という先生のことが今も残っています。

1989年から2023年までに、約20名の作家の作品を読んでいます。会員は現在11名です。月2回の例会は木曜日の午後1時半から3時くらいまで、場所は富山駅前のとやま市民交流館の学習室です。会員のアンケートで選んだ作家の作品を、文庫本をテキストに、1年から2年かけて読んでいきます。

小寺菊子の読書会を機に会員になった方からは「おそらくこの会

多くの作家の作品をじっくりと読みあつ



に入っていなかったら、一生読むことのない多くの作家の作品にふれることができ、読書の幅が広がりました」と言われました。

過去には、函館、津軽、東京、木曽路、関西、津和野、松山、小倉、熊本などの地に文学ツアーに出かけました。2018年夏の「三浦綾子・井上靖北海道文学ツアー」は、運転の得意な会員に助けられ、2泊3日で旭川や札幌の4つの文学館をめぐる、非常に心に残る旅となりました。

2023年は司馬遼太郎の『坂の上の雲』に取り組んでいます。今後とも地道に読書会を開き、ひとりでも新しい会員を増やしたいと思っています。

すまいるハート

代表者 中嶋 孝子
静岡県静岡市

静岡県読書推進運動協議会
〈推薦〉

すまいるハートは、絵本の読み聞かせや手遊びなどを通して、絵本の楽しさを伝えること、親子などの温かく豊かな関わりあいの一助となることを目的として、2005年10月に発足しました。

静岡県子ども読書アドバイザー認定者や、静岡市立図書館主催の読み聞かせボランティア養成講座の修了生で構成されており、現在は年齢層豊かな8名が在籍しています。

結成当時、静岡市立南部図書館の児童担当の職員さんから、「この館で赤ちゃん向けのおはなし会をぜひ開催したい」と声をかけていただき、私たちでお力になれるのならとお引き受けした、おはなし会「すまいるベビー」が始まりました。名称も自分たちで考えたので、今でも愛着があります。

緊張しながらむかえた初回は、会場を埋めつくすほどの、50組を超える参加者が集まってくくださ

り、うれしさに心が震えるのと同じに、読み聞かせへの関心の高さに応えるべく、あらためて身の引き締まる思いでいつぱいになったことを鮮明に記憶しています。

そして地道に歩み続け今年で18年、おはなし会のほかに、活動の幅もずいぶんと広がりました。地域活性化のイベントや、図書館でのわらべ唄講師、ブックスタート関連の事業、市立こども園の保育教諭や、小学校の図書ボランティアを対象とした、おはなし会の選書・手法・プログラム作成の講義を行っています。

数年前からは、静岡県立静岡聴覚特別支援学校に向き、慎重に本を厳選し、試行錯誤を繰り返して、工夫を凝らしたおはなし会を行い、子どもたちと交流を深めています。

小さな幼稚園児から、たくましい中学生へと成長していく過程、姿に接し、毎回明るくのびのび元気な子どもたちと会えるのは、私たちにとても心安らぐ楽しみな時間です。

各種のおはなし会に向けて念入りに打ちあわせをし、プログラムはメンバーそれぞれの得意分野を生かして絵本、紙芝居、手遊び、わらべ唄、ペープサート、パネルシア

ター、手袋人形、工作ワークショップなど多岐にわたります。さらに、全員が講座、講演会、勉強会に積極的に参加し、つねに新しい情報を得る努力をしています。

今後もメンバー一丸となり、子どもたちと絵本とのかけ橋であり続けるため、読書推進活動に努めてまいります。

りんりんおはなし会

代表者 高尾 美紀
佐賀県鹿島市

佐賀県読書推進運動協議会
〈推薦〉

りんりんおはなし会は、明倫小学校のPTAの母親部の活動として始動しました。その後、有志による読み語りグループボランティアのおはなし会として独立し、29年が過ぎました。発足当初のメンバーの再加入もあり、20代から80代までの幅広いメンバー12名で活動しています。

現在は、授業時間で「1・2年生へのお話会」「明倫祭りの舞台での出しもの」「クリスマスお話会」「卒業生へのお話会」を行っています。

「1・2年生へのお話会」は、1

学期に行います。とくに1年生に「入学の緊張を少しでもといてもらいたい。早く学校に慣れてもらいたい。おはなし会の楽しさを知ってもらいたい」、そんな思いをこめて、手遊びや音楽を織りこみながらリラックスできる雰囲気づくりを心がけています。今年度は3・4年生にも対象を広げ、「七夕おはなし会」を行いました。

秋の明倫祭りは、明倫小学校の一大行事です。発足当初に作成された大型紙芝居やペープサート、人形劇用の人形などを利用したり新規に作ったりして、舞台全体を使い、1年生から6年生まで楽しんでもらうよう工夫しています。

また、先生方に登場していただいたりして、お祭り気分を盛りあげています。準備や練習はたいへんですが、幅広い世代のメンバーがいろいろなアイデアを出しあい、試行錯誤しながら作っています。完成するまでの時間も大いに楽しみ、出しものは、毎回好評をいただいています。

「クリスマスお話会」は、2学期に1・2年生に行います。ハンドベルやブラスックシアターなどクリスマスらしい季節感たっぷりのおはなし会です。真つ暗な場所でのプロジェクター投影と音楽によるおは

なしは、子どもたちのわくわくどきどきを高めているようです。

「卒業生へのお話会」は、卒業前の6年生へ向けて「卒業おめでとう。これからも応援しているよ」の気持ちをこめて企画しています。子どもたちにとっては、最後のおはなし会です。

おはなし会のあとに手紙や感想文をいただくことがあるのですが、とても励みになります。これからも、「子どもたちにおはなしの楽しさを伝えたい。一緒におはなしの世界を楽しみたい」という気持ち大切に、未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、楽しみな活動が続いていきたいと思っています。



手作りのパネルで舞台を盛りあげる

「2023年度 全国読書グループ調査」を グループ数 中間報告

『全国読書グループ総覧』は2024年度内の発行予定です

2023年9月25日付で全国の公共図書館・類縁機関にお願いいたしました、「2023年度全国読書グループ調査」の集計作業がひと段落いたしました。
ご回答いただきました図書館・類縁機関の数は1959となりました。これは、2018年度の前調査より49減、前回は97.6%となります。

今回の調査で回答のあった読書グループの総数は前回より676減った1万1688(前回比94.5%)。子どもの本を対象としたグループ数は前回より363減った9550(前回比96.3%)、一般の本を対象としたグループ数は262減った3416(前回比92.9%)、子どもの本・一般の本どちらも対象としていると答えたグループは32増えた1806(前回比104%)です。これまで数を伸ばしてきた子どもの本グループが減少する一方、子どもの本・一般の本どちらも対象とするグループは微増しており、読書グループが対象とする図書の種類が広がりが感じられます。

カテゴリ別のグループ数(全体)は、
読書会 1858 (27減、86.6%)
研究会 1210 (4減、99.9%)

実演グループ 8269 (136減、98.4%)
文庫 989 (202減、83.0%)
読書支援 1138 (74増、107.0%)
環境整備 969 (10増、101.0%)
友の会 222 (13増、106.2%)
連絡会 797 (20増、102.6%)
* ()内は前回との比較

子どもの本グループにかなり多く、実演グループは前回より190減った7839(前回比97.6%)ですが、研究会は45増えた879(前回比105.3%)でした。コロナ以降の本紙「優良読書グループのあゆみ」にも、「実演活動再開に向けて情報交換・スキルアップに努めています」という報告が多く、実演休止を機に研修活動に力を入れ、その後、研究会の要素を維持しているグループが多いようです。

また、コロナでオンラインを活用した情報共有が進んだことが、友の会や連絡会の増加にもつながっているのかもしれない。その他、読書支援グループも増加しており、読書バリアフリー実現に向けての機運の高まりを感じます。

さらに詳細な考察を加え、本年度中に報告書『全国読書グループ総覧』を刊行する予定です。

事務局報告(6月)

- ・3日 第57回 造本装幀コンクール 見会
- ・4日 2024年度 子どもの読書推進会議 第1回幹事会
- ・4日 第57回 造本装幀コンクール 審査会
- ★6日 敬老の日読書のすすめ 書目 選定投票資料を事業委員に送付
- ★7日 機関紙「読書推進運動」第67号 入稿
- ★10日 機関紙「読書推進運動」第67号 責了
- ★14日 敬老の日読書のすすめ 書目 選定事業委員 投票締め切り
- ★20日 敬老の日読書のすすめ 書目 選定集計結果発表・回覧
- ・20日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」応募締め切り(※押印有効)
- ・21日 絵本ワールドinアエルワ ちあい(徳島県阿波市)
- ★24日 2024年度定時総会について 野間会長と打ちあわせ
- ★25日 第78回 読書週間ポスターイラスト募集 応募締め切り(松倉)
- ★27日 2024年度 定時総会・第2回 理事会 開催
- ・29日 親子読書地域文庫全国連絡会 記念講演会 出席(武蔵野プレイス)



読書推進運動協議会 公式 X (旧 Twitter)

編集部&事務局の ひとこと

●先日「子どもの読書離れ」をテーマに自由研究に取り組んでいる女子高校生よりインタビューを受けました。最後の質問は「おススメの本を紹介してください」。

●迷った末、高校時代に読んで今でも読んでいる本として開高健『オーパー』シリーズ(集英社文庫、高校時代に読みたかった本として小野不由美『十二国記』シリーズ(新潮文庫)、オルタイムベストとしてデュマ『モンテ・クリスト伯』(岩波文庫・講談社文庫(電子版))を紹介しました。ロマン・ロマンティックではない)の直球一本勝負、私の隠れた(?)性格がはつきりと表れた選択です。

●彼女にもおススメの本を聞いたところ、悩みながら、心に残っている絵本は古田足日・田畑精一『おしいれのぼうけん』(童心社)、中学生で出会えてよかった本は桜庭一樹『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』(富士見ミステリー文庫)、いま語りたい本は江戸川乱歩『孤島の鬼』(創元推理文庫・岩波文庫・春陽文庫ほか)と答えてくれました。高校生のほうが、陰影に富んだ選書です。

●初対面の、親子以上に年齢の離れたふたりで好きな本について語りあう時間は、あつという間の楽しさでした。その後、私は『孤島の鬼』を読みました。彼女はどれか読んでくれたでしょうか? 『モンテ・クリスト伯』は、この7月から平凡社ライブラリーが、来春あたりには光文社古典新訳文庫が新訳を出すので、ぜひ読んでほしいものです。(伸)